

## 〔1〕 日本の世界文化遺産について 答えと解説

(1) 答え ( ② ) 国際連合教育科学文化機関 (UNESCO・ユネスコ)

①の世界保健機構 (WHO) は、全世界の人々が健康的な生活を送ることができるように、さまざまな課題に取り組んでいる国際機関です。特に新型コロナウイルスのような感染症の撲滅に力を入れています。

③の国連児童基金 (UNICEF) は、世界のすべての子どもたちが健康で丈夫に育つ環境づくりや、教育や学習の機会を得ること、子どもが暴力からまもられることなど、子どもが未来に希望を持てる世界をつくるために取り組んでいます。

(2) -1 答え ア ( ② ) イ ( ⑤ ) ウ ( ① ) エ ( ④ ) オ ( ⑥ ) カ ( ③ )

(2) -2 答え ( 山梨県 ) と ( 静岡県 )

富士山はこの2つの県にまたがっています。

(2) -3 答え ( ① ) 中尊寺

②の延暦寺は滋賀県大津市にある比叡山ひえいざんに設けられたお寺です。平安時代のお坊さんで中国に留学した最澄さいしやうが開いた日本天台宗てんだいしやうの本山です。このお寺も古都京都の一部として世界文化遺産に登録されています。

③の法隆寺は、奈良県生駒郡斑鳩町いこまぐんいかるがちょうにあるお寺です。聖徳太子ゆかりのお寺で、7世紀に建てられました。建物のひとつは世界最古の木造の建物で、これらの建物群も「法隆寺地域の仏教建造物」として世界文化遺産に登録されています。

(2) -4 答え ( ⑥ ) 『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群

(2) -5 答え ( ③ ) 8万点

写真の沖ノ島は福岡県宗像市むなかたに属する島で、宗像市の海岸からは約 60 km離れた玄界げんかい灘なだに浮かぶ、周囲4キロメートルほどの孤島です。そのため、宗像地域から朝鮮半島へと直接向かう航路の道しるべとなった島でした。

また島の姿が荘厳なため付近の海域で暮らす人々にとっては「神宿る島」として、海の安全を祈る信仰の対象となりました。4世紀以降には、ヤマト王権が朝鮮半島との対

外交流を活発に行うために、航海の安全とその成功を祈る国家的な祭祀が沖ノ島で執り行われました。その国家的な祭祀は9世紀まで続けられました。

沖ノ島のおまつりを行った岩の上や周辺などから、神に捧げられた8万点に及ぶ品々が出土し、その全てが国宝に指定されています。昔から、沖ノ島で見たり聞いたことをいっさい口外しないこと、島から何も持ち出さないことなどのしきたりが守られてきました。また、現在でも一般人の上陸は基本的に禁止されています。

## 〔2〕 邪馬台国に関する問題 答えと解説

### （1） 答え （ 「倭」もしくは「倭国」 ）

日本では大和朝廷が成立した4・5世紀以降は自らをヤマトと呼んでいましたが、中国や周辺国家からは「倭」もしくは「倭国」と呼ばれました。その後、7世紀の終わりごろには、国号を日本に改めました。

### （2） 答え （ ② ） 『魏志』倭人伝

『魏志』倭人伝は、中国の歴史書のひとつで、3世紀の終わりに陳寿という人が「魏」という国について記したものです。正式名称は『魏書』第30巻 烏丸鮮卑東夷伝倭人条といます。

3世紀の日本列島に住んでいた倭人（日本人）の生活の様子や政治、地理などについて記されていました。また、邪馬台国までの距離や女王卑弥呼などについても記されていました。この『魏志』倭人伝の記述だけでは、邪馬台国の場所は特定できないため、邪馬台国の場所については多くの意見が出されています。

①の古事記は、現存するもっとも古い日本の歴史書です。日本の神話や伝説などや初代の天皇から推古天皇に至るまでのさまざまな出来事が記されています。

③の論語は、古代中国の聖人とされる孔子が弟子たちを問答した内容を、孔子の死後に集めて記した書物です。「過ぎたるは及ばざるがごとし」のような名言が多く、現代でも多くの人により生き方を考える場面や仕事の場面に使われています。

### （3） 答え （ ① ） 伊都国

『魏志』倭人伝には、邪馬台国へ至る道として次の国が日本列島にあったことを記し

ています。朝鮮半島から海を渡ると、「対馬国」（長崎県対馬市）→「一支国」（長崎県壱岐市）→松廬国（佐賀県唐津市）→伊都国（福岡県糸島市）→奴国（福岡県福岡市・春日市・大野城市一帯）→不弥国（福岡県宇美町など）→投馬国（諸説あります）→邪馬台国

②の薩摩国は、現在の鹿児島県を中心にした古代の国の名前です。

③の筑紫国は、現在の福岡県内にあった古代の国の名前です。7世紀に筑紫国と呼ばれていましたが、奈良時代になると、筑前国と筑後国の2つの国に分かれました。

（4） 答え （ ④ ）

青銅の鏡です。光をはねかえす鏡面と反対側にはさまざまな模様がつけられました。写真は佐賀県二塚山遺跡出土の中国からもたらされた鏡です。

①は弥生時代の祭祀の道具である銅鐸です。

②は、弥生時代の魔よけやまじないに用いられた巴形銅器です。南の海に棲んでいたスイジガイをデザインしたものといわれています。

③は、弥生時代の青銅の剣です。



スイジガイ

〔3〕 日本の遺跡について 答えと解説

（1） 答え （ ② ）

青森県の三内丸山遺跡です。いは大阪府の大仙古墳、うは佐賀県の吉野ヶ里遺跡です。

（2） 答え （ ② ）

三内丸山遺跡の説明です。①は、うの吉野ヶ里遺跡の説明、③はいの大阪府の大仙古墳の説明です。

（3） 答え あ（ ② ） い（ ① ） う（ ③ ）

あ（ ② ）三内丸山遺跡のシンボルともいえる大きな物見櫓で、6本の柱が特徴です。い（ ① ）は大仙古墳で、日本最大の前方後円墳です。う（ ③ ）の吉野ヶ里遺跡は、堀で囲まれた環壕集落と物見櫓が特徴です。